

公益財団法人世界自然保護基金ジャパン (WWFジャパン) 行動規範

(WWFインターナショナルのCode of Ethics (2009年改訂版) 和訳)

私たちの使命、私たちの世界、私たち自身に対していかに行動するか

WWFには明確に規定した使命と目的があります。すべてのプログラムは使命の達成を支えるものですが、以下の行動原則を守ることで、目標の達成が容易になります。

1. 地球規模で活動する独立した団体であり、多文化を尊重し、特定の政党に組みしない
2. 問題に取り組むに当たっては、入手し得る最高の科学的情報を用い、自身の取り組み評価を厳しく行なう
3. 不必要な対決を避け、対話を追求する
4. フィールドプログラム・政策提言活動・能力開発・環境教育を組み合わせ、具体的な問題解決策を組み立てる
5. 地域住民と先住民の文化的・経済的なニーズを尊重し、フィールドプログラムの立案と実施への参画を得る
6. 他の団体・政府・企業・地域社会とのパートナーシップ構築に努め、WWFの有効性を向上させる
7. その運営に当たっては、費用対効果を考慮し、最も厳しい説明責任基準に則って、いただいた寄付金を活用する

私たちの世界

私たちの活動が環境に与える影響（特に有害な影響はいかなるものであっても）を最小限に抑えるよう常に努力し、必ず、すべての環境保護法を常に遵守しつつ活動を進めます。日常生活では、仕事と私生活の両面で、できる限り汚染と廃棄物を減らし、可能な限り再生可能・リサイクル可能な材料を使うことを通じて、人に説いていることを自ら実行します。

私たち自身

1. お互いに対して。常に同僚の権利を尊重し、お互いの違いが持つ力を歓迎し、豊かな多様性を楽しみ、品位と敬意をもって互いを処遇し、チームワークと協力を奨励し、率直で

オープンな雰囲気を作り、同時に、あらゆる形の差別と政治的戦略を厳しく批判します。

2. 一般の人たちに対して。同僚の文化的・民族的多様性を尊重するように、世界の人々の多様性を尊重します。組織外の行動において、常に正直でオープンであり、文化、民族、宗教、政治、その他のいかなる理由でも、決して他者を差別せず、先入観を持ちません。過ちから学び、それを繰り返さないよう、受けた批判を記録し、対応します。

3. 政府と組織に対して。グローバルな、多文化を尊重する組織として、「集まればもっと良くなる」というコンセプトに従い、志を同じくする組織との協力と協働を評価し、促進します。WWFと使命を異にする組織であっても、その正当性と、目標の価値を認めます。それと同時に、独立を維持し、私たちの視点をしっかりと守ります。戦略、資金調達、実施のどの側面でのパートナー組織であるかを問わず、常に功績を分かち合います。

4. メディアと、世論への影響力を持つ人たち（インフルエンサー）に対して。WWFの見解を広め、政府・産業界・一般の人たちにWWFの使命と目標を伝える上で、世界のメディアが持つ価値を認識し、評価しつつ、同時に、メディアとのすべての交流において、私たちは常に正直で明快で、政治的に中立であることを希求します。私たちが同意しない政治的、民族的、宗教的見解を支持するために私たちの声明が利用されたり、誤用されたりしないよう、可能な限り努力を尽くします。

5. パートナー企業に対して。私たちの使命を達成するために、企業部門と交流し、リーダー企業との間で活発な協力関係を育む必要性を認識します。プロフェッショナルでオープンな、正直で率直なやり方で、企業部門と協働します。企業の見解を尊重しつつ、同時に、私たちの独立性を確保し、より持続可能な未来に向けて前進するために、企業に対して異議を唱え、企業を触発するよう努めます。

6. 業者とコンサルタントに対して。外部の独立したリソースの選択にあたり、常に公正かつ客観的に、偏見を排して、能力を評価します。情実や賄賂を拒否し、感謝のしるしの提供によって判断が影響を受けることを許しません。家族、宗教、民族、政治、その他のいかなる個人的関係によっても、発注が影響を受けないようにします。

7. この組織に対して。常に、WWFへの信頼、評価をもたらし、組織の効率と効果を改善するようなやり方で、行動します。お預かりした資金の使い道を注意深く管理し、たとえ個人的な不都合という代償を払おうとも、徹底して正直かつ透明な方法で資金を運用し、常に最も費用対効果の高い解決策を追求します。